

「館小モデル」とは？

学校教育目標から

館山小学校教育目標

- やればできる…夢を持って進んで学習する子
- やさしくなれる…相手を気遣い思いやりのある子
- やすますできる…たくましく活気に満ちた子

【進んで学習する子ども】

- ・学校が好き、たのしい。
- ・勉強が好き、たのしい。
- ・授業が好き、たのしい。
- ・課題を解決することが好き、たのしい。
- ・勉強ができるようになりたい、わかるようになりたい。

という意欲をもち

- ・自分の課題を明確につかめる。
- ・既習事項を生かして、自分なりの方法で追求し、自分の考えをもてる。
- ・自分の考えを、根拠を明らかにして表現できる。
- ・友達の考え方を、自分や他の友達の考え方と比べたり関係づけたりして聞ける。
- ・話し合いを通して、自分の考え方を深めたり広げたりして、より確かな考え方をもてる。
- ・振り返って伸びた力を自覚できる。
- ・身に付けた学習内容を、生活の中で活用できる。

という学習力を備えた子ども

【教師の授業力】

※子どもに「学習力」をつけ、「進んで学習する子ども」にするために必要な能力・技能

【研究手法】

本校では、大まかな目標や枠組みは規定するものの仮説や検証方法などを絞らない「臨床的手法」で研究を進める。

(臨床的実践研究)

この方法の利点として、次の3点が挙げられる。

- 個々の教師のアイディアや自由な発想や工夫が生かされ、形になる。
- 個々の教師の小さな実践が蓄積される。
- 多面的な考え方による取組ができる。
(いろいろな方向から目的達成を図ることができる。)

進んで学習する子どもの育成をめざして

—子どもに学習力を！ 教師に授業力を！ 「館小モデル」での取組—

「学習支援体制づくり」

【自分なりの方法で追求し、学習する。】

- 学習競技（検定プロジェクト）

「社会検定」（9月）

「漢字検定」（9月）

「計算検定」（9月）

※昨年度から甲子園を検定に変更し、1年生から全員が参加するようにした。検定カードを作成し、毎年の成長の様子を確認できるようにしていく。

検定は今年度からチャレンジタイムの時間で実施する。

- タイピング検定（年1回）

「学習支援体制づくり」

【基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視する。】

- 国語・算数チャレンジタイム・朝読書・MIM・視写（1時間前に10分間の基礎学習）

○漢字・計算の習熟の取組

（当該学年の漢字・計算が身に付いているかの確認を行う）

- レベルアップ講座（3学期に5年生対象）

○特別支援教育による個に応じた指導

○特別支援教育学習支援員との連携による合理的配慮に基づいた指導

「授業実践」

○公開研究会、年間1回の実施

【一人一実践の実施】

- ・第1回（第39回）公開 10月31日（金）
- ・要請訪問

○昨年度の実践報告会の実施

【国語・算数における学習の進め方や約束の共通理解】

- ・国語・算数主任等による実践報告から（年度初め実施）

○学習会の開催

【外部講師を招聘し、より専門的な指導による研修】

- ・模擬授業、講演等の実施

○さわやか研修

【若年層教諭による自主的研修】

- ・学級経営や授業改善など、自分たちの課題への取組

【自主的に学んでいく仕組みをもつ日常的な教育活動】

- サテライト経営
- 教職員の創意工夫を生かした教材教具
- 1人1台タブレット・デジタル教科書の効果的な活用

「学力形成を支える学習環境」

【日常的な指導の実践】

- なかよし言葉運動

○館小ルール10

○家庭学習のすすめ

「子どもの実態把握」 子どもたちの実態を多面的に捉え、指導の手立てや指導計画等の作成に生かす。

各種調査から

- ・国語・算数における意識調査
- ・家庭学習のふりかえり
- ・なかよし言葉チェック
- ・千葉県標準学力検査
- ・全国学力学習状況調査
- ・「hyper-QU テスト」等

日常観察から

登下校の状況、授業中や休み時間等の様子から、子どもたちの人間関係を観察し、学びに向かう雰囲気づくりに生かす。

学習の評価から

発言、ノート、学習作品、ワークテスト等から、個人や学級の傾向をつかむ。